



未加2  
種 1520  
巻 6-4

あゆみ抄巻之目錄

十九家才二下

乃家八

何乃

何乃

邊家九

何

良家十

何ら

能美家十一

何の

何乃と

何乃

何乃と  
中  
末

何まで 若まで

施尔家十二

何ふ

何さへ

余利家十三

何より 若より ねより

何りに

何つ

何のゆゑ

那牟家十四

何ぢん

何ま

何り 若り 装り

何のめか

何ゆゑ

碁登家十五

何あ

毛天家十六

何ゆ 若りて

加保家十七

何か

那加良家十八

何か 若りて

何ま

加天良家十九

何さ

何 若りて

何ま

あゆみ抄巻三目録終



あゆみ抄巻三

北邊口授

門人

吉川彦富

并上義胤

筆受

十九家才二下

乃家

八

何乃

何乃若孫也。其母は世の習流の中浦の末と云ふ。何乃のすゝめあり。乃乃のすゝめあり。乃乃のすゝめあり。乃乃のすゝめあり。

何のこの

るを里よりよき同但里よりハ親とのへて何のこの  
さゆいふまはあつちかき何のこのへて何のこの  
あつちかき何のこのへて何のこのへて何のこの  
不及り家又哥月何のこのへて何のこのへて何のこの  
とらふいふて何のこのへて何のこのへて何のこの





















ことかゝる（一）ことかゝる（二）ことかゝる（三）ことかゝる（四）  
 ことかゝる（五）ことかゝる（六）ことかゝる（七）ことかゝる（八）  
 ことかゝる（九）ことかゝる（十）ことかゝる（十一）ことかゝる（十二）  
 ことかゝる（十三）ことかゝる（十四）ことかゝる（十五）ことかゝる（十六）  
 ことかゝる（十七）ことかゝる（十八）ことかゝる（十九）ことかゝる（二十）  
 ことかゝる（二十一）ことかゝる（二十二）ことかゝる（二十三）ことかゝる（二十四）  
 ことかゝる（二十五）ことかゝる（二十六）ことかゝる（二十七）ことかゝる（二十八）  
 ことかゝる（二十九）ことかゝる（三十）ことかゝる（三十一）ことかゝる（三十二）  
 ことかゝる（三十三）ことかゝる（三十四）ことかゝる（三十五）ことかゝる（三十六）  
 ことかゝる（三十七）ことかゝる（三十八）ことかゝる（三十九）ことかゝる（四十）  
 ことかゝる（四十一）ことかゝる（四十二）ことかゝる（四十三）ことかゝる（四十四）  
 ことかゝる（四十五）ことかゝる（四十六）ことかゝる（四十七）ことかゝる（四十八）  
 ことかゝる（四十九）ことかゝる（五十）ことかゝる（五十一）ことかゝる（五十二）  
 ことかゝる（五十三）ことかゝる（五十四）ことかゝる（五十五）ことかゝる（五十六）  
 ことかゝる（五十七）ことかゝる（五十八）ことかゝる（五十九）ことかゝる（六十）  
 ことかゝる（六十一）ことかゝる（六十二）ことかゝる（六十三）ことかゝる（六十四）  
 ことかゝる（六十五）ことかゝる（六十六）ことかゝる（六十七）ことかゝる（六十八）  
 ことかゝる（六十九）ことかゝる（七十）ことかゝる（七十一）ことかゝる（七十二）  
 ことかゝる（七十三）ことかゝる（七十四）ことかゝる（七十五）ことかゝる（七十六）  
 ことかゝる（七十七）ことかゝる（七十八）ことかゝる（七十九）ことかゝる（八十）  
 ことかゝる（八十一）ことかゝる（八十二）ことかゝる（八十三）ことかゝる（八十四）  
 ことかゝる（八十五）ことかゝる（八十六）ことかゝる（八十七）ことかゝる（八十八）  
 ことかゝる（八十九）ことかゝる（九十）ことかゝる（九十一）ことかゝる（九十二）  
 ことかゝる（九十三）ことかゝる（九十四）ことかゝる（九十五）ことかゝる（九十六）  
 ことかゝる（九十七）ことかゝる（九十八）ことかゝる（九十九）ことかゝる（百）

何す

何の若既御  
止家の引鹿

何す

何の引鹿

何す

何の引鹿

何す

曾舟集

仲室朝自集

板拾

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

テサハ

よわあその中らるる人こそふあのみよあり

こけすすわらわらななな月もわあからそ明きあか

あさのるをわらうらうら都すわあれるらうらあはあ

あすをわらうらうら道月入ああわあななああはあはあ

えんをわらうらうらあはあはあはあはあはあはあはあ

又すたよあ御曾舟集二首みおは又あか

何す何ああ何すとぬあ

あつ里すまごままををあ

あつ心あつたのあみらあああああああああああああ

あつあああああああああああああああああああああ

又何あああああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ありて ラ一デモ せん 一デモハ を 三カ切知 ま 三カ何カシラズ ず 一カが何ヨリモ ぐ 一デモ さ 二テアロカ へ ニ一デガ たり ニ一デガ  
を せん 一デモ ば 一デモハ せん 三カ切知 ば 三カ何カシラズ せん 一カが何ヨリモ ば 一デモ せん 二テアロカ ば ニ一デガ

お

文選の賦。草木鳥獸若くをかくしひのあはる  
 不と古き何と云ふにまゐるは何とまざるの  
 と云ふ也。○スハ ハ ス マ デ とあはるはつゝわづらひの  
 まるは ウ セ ホ の字をうりてはまる也

余利家

何れ

何れ若し物  
はあつて

物をさあせむるはあつてはるは

之例 ○ オ ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ  
 時里同又 ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ

若くは ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ  
ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ  
 の末より ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ  
 言ふは ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ  
 申すは ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ

今 ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ  
ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ  
 あり ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ  
 ○ オ ハ ス マ デ と云ふはつゝ オ ハ ス マ デ と云ふはつゝ オ ハ ス マ デ と云ふはつゝ  
ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ ハ ス マ デ と云ふはつゝ  
 曰 ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ ウ セ ホ と云ふはつゝ









人々ゆゑのらにのりてはるるにわらふまじきものなりとて  
ゆゑも一々ゆゑを等と見本抄

何のゆゑ

何れも引  
鹿柳也

里

と

いづれもゆゑをいふゆゑのゆゑにまはるるはさし如く  
杖をうてあはれをいふゆゑにまはるるはさし如く  
悪むもいふゆゑにまはるるはさし如く  
ぬめぬめと見え本抄

ゆゑゆゑと一りしゆゑゆゑゆゑと

十四

那牟家

何のゆゑ

何れも引  
鹿柳也

里

と

ゆゑゆゑと一りしゆゑゆゑゆゑと  
ゆゑゆゑと一りしゆゑゆゑゆゑと

十五

其岩登家

子句の中よりわらひも又しとて句はあつたあつた  
心なめ又宣命の中よりわらひとあつたは先也又中よりわらひ  
あつたは先也又宣命の中よりわらひとあつたは先也又中よりわらひ  
をうらむ時がわらひとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也  
乃人のつとめよりわらひとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也  
まゝとてわらひとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也  
とあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也

このとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也  
わらひとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也  
わらひとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也  
わらひとあつたは先也又中よりわらひとあつたは先也

其岩登家

其岩登家

其岩登家













[Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.]

[Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.]

Handwritten text at the top right of the page.

Handwritten text at the bottom right of the page.

